



地域医療連携室だより Vol. 148



発行元 地方独立行政法人
市立大津市民病院 地域医療連携室
住 所 〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目 9 番 9 号
電 話 077-526-8192
F A X 077-522-0192 発行日: 2021 年 9 月 1 日

市立大津市民病院 検索

だより内に が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。

診療部長就任のごあいさつ

呼吸器外科 診療部長: 常塚 啓彰



本年 7 月より呼吸器外科診療部長に就任致しました常塚啓彰(つねづか ひろあき)と申します。原発性肺がんを始めとする肺腫瘍を中心に気胸や縦隔腫瘍などの手術を担当します。現状を踏まえて当院の紹介をさせていただきます。

【肺がん】

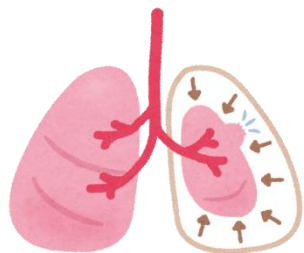
肺がんの罹患者数は 2018 年に 12 万人を越え 5 年の全生存が 4 割を下回る厳しい状況ですが、免疫療法などの進歩により明るい兆しも見えております。その中で肺がんの外科治療では縮小手術と拡大手術が話題となっております。画像診断の進歩に伴い小型の肺がんが発見され悪性度も評価がされるようになり、悪性度が低い病変では呼吸機能を温存する縮小手術が選択されます。

本邦の臨床試験でも 2 cm 以下の小型肺がんでは区域切除が標準術式の肺葉切除より良好な予後が示されました。一方で拡大手術にも注目されております。薬物療法の進歩により進行肺がんでも手術を含めた局所治療が有効な場合もあり、多方面から治療を組み合わせることが重要と言えます。



【縦隔腫瘍】

以前は胸骨正中切開がアプローチの中心でしたが、腫瘍のサイズなどの条件はありますが胸腔鏡やロボットによる負担の少ない手術を行うようになっております。



【気胸】

若年者の再発が問題となっており 25 歳未満で 10-20% と高率に再発するという報告もあります。一因として手術で肺嚢胞(ブラ)を切るための自動縫合器が挙げられており、ひと昔前のブラを縫い縮める方法などを行うようにしております。

【ロボット手術】

多くの外科領域で最近話題のロボット手術ですが、呼吸器外科領域でも 2018 年から保険収載され 2020 年には国内で 4322 件が実施されました。ロボットは胸腔鏡と比べますとまだ手術時間を要しますが 3 次元の良好な視野で精緻で自由度の高い操作が可能でありその利点を生かした手術を行うことが可能です。今後もロボット手術は増加することが予想され、当院も 8 月から施設承認を取得しました。

【当院の特色】

技術の進歩により呼吸器外科手術は大きな転機を迎えております。縮小手術から拡大手術まで、開胸手術・胸腔鏡手術・ロボット手術など様々なニーズに対応して参ります。疾患につきましても肺がんから気胸まで最適な治療を提供して参りたいと考えております。連携施設の諸先生方におかれましては今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。





診療部長就任のごあいさつ

心臓血管外科 診療部長(心臓外科部門): 宮崎 隆子



2021年7月1日より心臓血管外科の心臓部門 診療部長に就任いたしました宮崎隆子です。京都府立医科大学を卒業後、福岡市立こども病院での研修を経験し、長年先天性心疾患の外科治療に携わってまいりました。ご縁があって音羽記念病院でシャント治療を学ばせていただき、2020年4月より市立大津市民病院へ赴任いたしました。

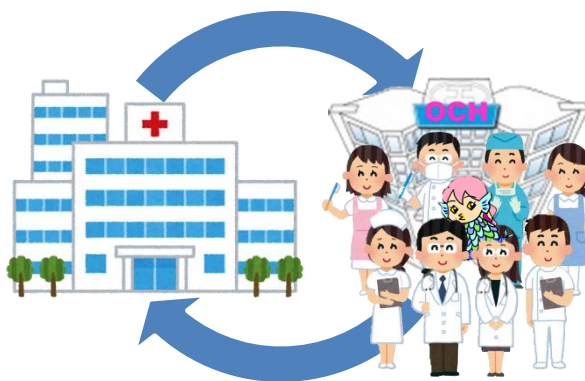
当院 心臓血管外科は心臓部門と血管部門で多岐にわたる疾患に対応しています。

近年の心臓手術の成績向上には著しいものがあります。後天性心疾患である弁膜症や冠動脈バイパス術では低侵襲に留意し、高齢者でも安全に手術が受けられるようになり、良好な成績を納めています。



また、今まであまり注目されてこなかった三尖弁閉鎖不全についても手術介入による予後改善が期待されるため、当院では積極的に治療に取り組んでいます。不整脈に対するペースメーカー植込み術にも対応しています。さらには、先天性心疾患では治療戦略の進歩により幼少期に手術を受けられた方の多くが成人となることが可能となっていますが、小児科から成人医療への移行が問題となっています。加えて、成長に伴って遺残病変や新病変に対して再手術を余儀なくされる症例や成人期に初回手術を施行される症例も増加しています。当院では個人の社会背景を考慮しつつ、長期予後を見据えた治療戦略に取り組んでいます。

血管疾患としては、胸部大動脈瘤や腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術や閉塞性動脈硬化症に対するバイパス術や血栓内膜除去術などに対応しています。また、下肢静脈瘤に対しては1470nm レーザーによる血管内焼灼術を早くから導入しています。さらに、透析の内シャント作成からトラブルに至るまで対応しています。このように先天性から後天性までの幅広い心臓病、不整脈、動脈疾患、下肢静脈瘤や内シャントなど幅広い疾患群に対し、患者さんの生活の質向上を目指して、個人個人にあった治療方針を立てられるよう真摯に対応させていただきます。このように患者個人へのきめ細かい対応はチーム医療無くしては成り立ちません。院内では循環器内科、麻酔科、集中治療科(救急診療科)をはじめ各科や看護師、臨床工学技士、リハビリテーション部門、栄養科などと、学外では京都府立医科大学をはじめ周辺病院と密に連携をとりながら地域の皆様にお役に立てるよう尽力してまいります。お気軽にご相談いただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。



診療部長(血管外科部門)
藤原 克次

診療部長(心臓外科部門)
宮崎 隆子

医長
谷口 智史





リスクマネジメント部会からのお知らせ



9月17日「世界患者安全の日」 をご存じですか？



「世界患者安全の日」は、医療安全を推進する意識を高めるため、WHO（世界安全機構）が2019年決めました。世界中で一斉に患者安全・医療安全推進の取り組みを行い、医療者・患者・ご家族等多くの方への関心を持って貰うことを目的にしています。日本では2001年から11月25日（いい医療に向かってGO）を医療安全推進週間と定めて総合的な医療安全対策を進めてきました。

世界患者安全の日は、設定されて間もないため、多くの方に周知して貰えるよう情報を発信していきたいと思っています。今年のスローガンは「safe health workers. safe patient」訳すと、「患者も医療者もみんなで守る医療安全」となります。

現在、当院のリスクマネジメント部会では、職場巡視・コミュニケーション・院内統一・ピアサポート・広報・イベント企画の6つのグループに分かれ、医療安全推進活動を行っていますので、ご紹介させていただきます。



職場巡視

RM(リスクマネージャー)が職場を巡視し、チェックリストに沿ってマニュアル等の遵守状況を確認します。

コミュニケーション

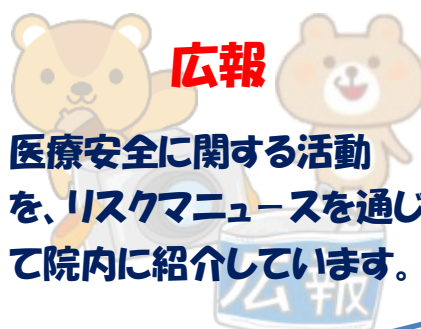
医療コミュニケーションにおける改善点を調査・分析し、具体的な対策や改善策を院内に周知します。

ピアサポート

事故を起こしたスタッフは傷ついています。スタッフのこころのサポートについて考えるグループです。

院内統一

インシデント報告から、事故防止について院内統一すべき事柄を検討するグループです。



広報

医療安全に関する活動を、リスクマニユースを通じて院内に紹介しています。

イベント企画

患者さんと職員に医療安全についてアピールするグループです。



2 年目研修医 note



①名前：八幡 亜樹（やはた あき）

②出身大学・卒業年度：滋賀医科大学・2020 年 3 月卒業

③一言：

生きることは人類が行ってきた表現だと思っています。医学・医療を通じてそのことの更なる奥深さを学ばせていただいています。

④地域の先生方へのメッセージ：

これまで研修や地域実習、また個人的なご協力を依頼する形で、滋賀の診療所の先生には大変お世話になってきました。そのご恩を自分なりの形で社会にお返ししていけるように、今後も邁進していきたいと思っています。



MSW
アイコさん

①



③



②



④



クイズの答え：1 ページ目 中央右/2 ページ目 病院スタッフ中央/3 ページ目 見出し右/4 ページ目 2 年目研修医 note 内 左下/MSW アイコさんタイトル内

※マスクは外して描いています。

地域医療連携室からのお知らせ

一 小児科診察依頼書の送付について一

内容の一部を修正したものを同封させていただきました。お手元に旧版が残ってありましたら差し替え後、ご使用いただけると幸いです。

今後ともよろしくお願いいたします。



地域医療連携室より

地域の医療機関の皆様、いつも大変お世話になっております。地域医療連携室だよりの編集を担当しております、中野と申します。

COVID-19 の感染が拡がりつつある令和 2 年 4 月に入職、編集担当となりました。

先が見通せない中、令和 2 年 7 月より『疫病退散』の願いを込めてはじめた『アマビエクイズ』。気がつけば開始から今月で 1 年 3 ヶ月となります。いつまでこの状態が続くのかと不安になりますが、その不安から解き放たれ、心穏やかに過ごせる日が必ず来ると信じて、これからも、願いを込めて『アマビエクイズ』を続け、読んでいただいた方が楽しい気持ちになれるような編集を心掛けてまいります。少しでも、楽しんでいただければ幸いです。

今後とも、よろしくお願いいたします。

地域医療連携室：中野 奈央子

